

十日町市初の外国人地域おこし協力隊で松之山地域下布川地区の2集落を担当してきたフランス出身のローラン・アントワヌ・テオフィルさん(39)が退任。27日、十日町市役所に関口芳史市長を訪ね活動報告を行った。ローランさんは今後も十日町市に定住し観光業で地域貢献に励む。

下布川地区の松口と三桶の2集落を担当。美人林入口にある直売所の運営も担い、地場産野菜や木工品の販売に取り組んできた。地域に残っていた木材加工機械の使い方を一から習得し、美人林

のブナを使用の「まな板」や「皿」などの商品開発にも挑戦。地域の魅力を発信する支援をしてきた。

さらに一人暮らしの高齢者宅の除雪や、月ごとの集落の集まりやイベント

## 「魅力、世界発信する」

### 仏出身のローランさん定住

トへの参加を欠かさず、住民からは「アンさん」

の愛称で親しまれ地域の日常に深く入り込み、多くの信頼を生んだ。

今後は、今までの木工加工や販売活動が続けながら、個人で観光事業

で伝え、世界に人に知ってもらいたい」と意気込む。「いままでフランスやポルトガル、ブラジルなど過ごしてきたが、松之山は地域の生き方、考え方が素晴らしく団結力がある。受け入れる力もあり、困った時には声をかけてくれる。今まで他の国でも見たことがない。ここを拠点にこれからも地域の魅力を世界に伝えたい」と今後の活動への意欲を語った。

市によると、協力隊退任後者はこれまでに91人このうち67人が定住。定住率は73・6%となっている。



退任後は松之山・下布川地区に定住し観光事業を立ち上げるローランさん(先月27日)